

厚生労働行政推進調査事業費補助金(腎疾患政策研究事業)
腎疾患対策検討会報告書に基づく対策の進捗管理および新たな対策の提言に資するエビデンス構築

分担研究報告書

普及、啓発：普及啓発資材の開発

研究分担者：中川直樹 旭川医科大学・准教授
研究分担者：内田治仁 岡山大学・教授
研究分担者：今澤俊之 国立病院機構千葉東病院・統括診療部長
研究協力者：葉原孝成 熊本大学・准教授
研究協力者：長洲 一 川崎医科大学・准教授

研究要旨

医療従事者、行政機関、患者・家族、国民全体に慢性腎臓病(CKD)について普及啓発を行いより多くの人が腎疾患対策を主体的に実践する体制を構築することを目標とし、対象者(未病の国民、生活習慣病等 CKD リスクを有する国民)に応じた適切な資材の開発を進めた。

A. 研究目的

国民、医療者を対象に CKD 早期発見、受診勧奨、専門医受診に資する資材を作成する。

B. 研究方法

1) 普及啓発資材活用の実態調査

全国で使用されている普及啓発資材を調査し、好事例や課題について抽出し、資材の開発に活用する。

2) 普及啓発資材の開発

未病の国民、生活習慣病等 CKD リスクを有する国民に対し、CKD の重要性の啓発にフォーカスした平明な内容の普及啓発資材を開発する。

(倫理面への配慮) 本事業では個人情報扱わない。

C. 研究結果

1) 普及啓発資材活用の実態調査

<小児向け>

昨年度までの本研究班では、小児慢性腎臓病患者向けに、ヘルスリテラシー向上を目的とした啓発本「おしっこ(尿)と腎臓の不思議」を作成した。移行期医療プログラムは 12~14 歳で始めるのがよいことから、本書は小学生高学年から中学生を読者対象として記述されている。



<ダウンロード可能 CKD 普及啓発用動画>

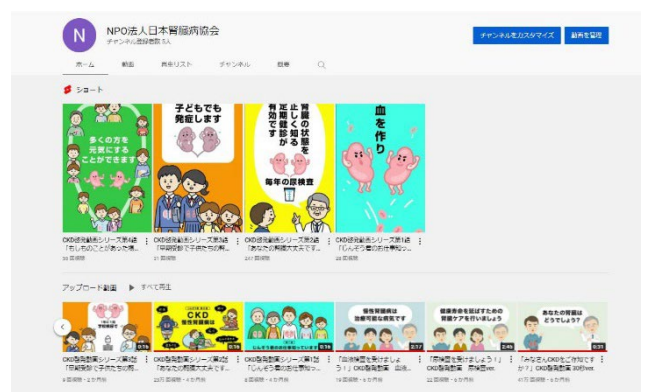
昨年度までの本研究班では、様々なカテゴリーのデジタルサイネージに動画として放映できるように、さらに 2 種類の動画を作成した。CKD 啓発動画シリーズ第 3 話「早期受診で子供たちの腎臓を守ろう!」と CKD 啓発動画シリーズ第 4 話「もしものことがあった場合 臓器提供という選択」で、これらは NPO 法人日本腎臓病協会の HP にアップし、ダウンロードして利用できるようになっている。

<https://ckd-research.jp/download/>



<YouTube の活用>

NPO 法人日本腎臓病協会では、YouTube のアカウントを作成し、CKD 普及啓発動画を公開した。



<既存普及啓発資材の調査>

未病 A4判 / 2ページ 厚生労働省：腎臓からのSOSを見逃していませんか？

- 健診結果を見直してみましょう
- かかりつけ医に相談しましょう
- 腎臓と脳や心臓の関係、尿蛋白って？



未病〜G2 A4判 / 16ページ 全腎協：CKDになっちゃった どうする？こうする！

- 腎臓の働き（位置、しくみ）
- CKDとは、CKDの症状
- Stage、診断基準
- 進行予防のための生活改善、食事、運動
- Q&A

マンガでわかりやすい



Q&Aで「たんぱく質の量」「塩分」「市販薬やサプリメント服用」についても触れている

未病 A4判 / 4ページ 東京都福祉保健局：ほととけなぞ！CKD（慢性腎臓病）

- 腎臓とは
- CKDとは（尿検査、血液検査）
- Stageの症状
- 合併症（心臓、脳血管障害）
- 腎臓を守るには
- 定期検査を受けよう
- 専門医療機関への紹介基準



健康診断で尿蛋白が陽性だったけれど、特に症状をないし、ほうとてないでいいよね？

「あるある」事例。



未病 A4判 / 4ページ 栃木県：CKDを知っていますか？

- CKD危険度チェック
- 腎臓の役割
- CKD重症化の流れ
- 検診受診動機
- 腎臓の健康チェック



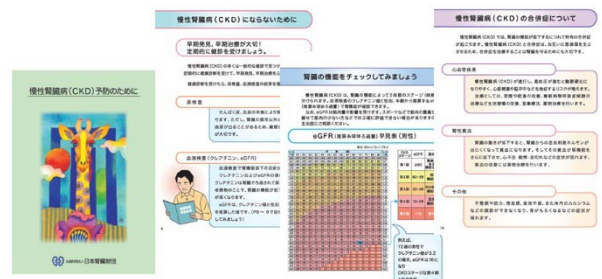
「腎臓の健康チェック」で該当する項目が多い人に、かかりつけ医の受診を促している

8人に1人…でキットをした後に「危険度チェック」で自分事に

CKD重症化の流れが「悪い生活習慣」⇒「生活習慣病」…で始まっている

未病〜G5 20ページ 日本腎臓財団：CKD予防のために

- 腎臓とは
- CKDでなにか
- CKDにならないために
- 腎臓の機能をチェックしてみましょう
- CKDステージの特徴
- CKD予防（運動編）
- CKD予防（食事編）
- CKDの合併症について
- もし腎不全になったら



未病 広告 日本腎臓財団：若いうちから、腎臓検診



2) 普及啓発資材の開発

以上の既存資材の情報を整理し、以下のコンセプトで開発資材の開発を進めた。

対象：CKDを知らない、CKDステージG1/2、20-40代の未病の国民

コンセプト：腎臓（の働き）の認知、CKDの認知

目指す行動変容：腎臓への関心を持つ/年1回健診に行く

提供する情報：腎臓の働き/腎臓の位置・大きさ/健診での指標/腎臓が病気になるとどうなるか/CKDにならない生活習慣、等

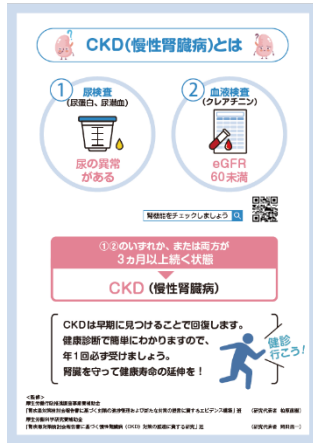
手法：クイズや驚きを与える情報で興味をひく「そうなの?」「なるほどね」

用途：健診時や市民公開講座参加者に配布

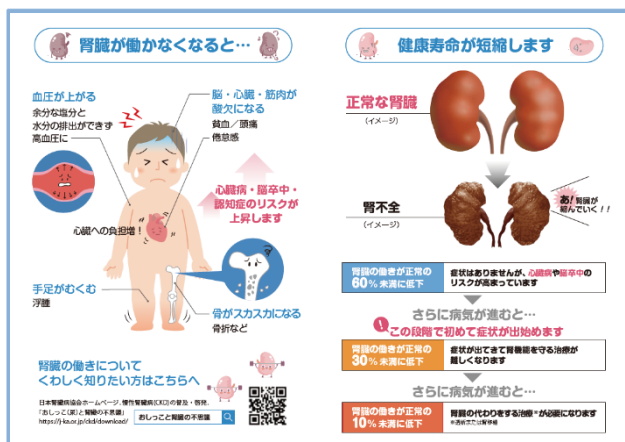
<未病の国民向け啓発資料>

表紙

裏表紙



中面



D. 考察

本 WG では、医療従事者、行政機関、患者・家族、国民全体に慢性腎臓病 (CKD) について普及啓発を行いより多くの人が腎疾患対策を主体的に実践する体制構築に資する「啓発資料の決定版」の作成を目指している。

昨年度までの本研究班では、国民を対象とした CKD (検尿、eGFR 測定) 啓発資料 (チラシ、動画等) を作成してきた。また全国の啓発イベントで活用できる CKD 理解の普及を目的としたクイズパネルや、全国の市民公開講座等で使用する共通の PowerPoint 一式を作成して利用可能としてきた。

今年度は CKD 発症抑制を第一優先とし、未病の国民に対する資料の開発を行った。さらには生活習慣病等 CKD リスクを有する国民に対する啓発資料の開発も進めている。

当研究班で開発した資料もあわせて、必要に応じて利活用していくことで、さらなる普及啓発が進むと期待される。

E. 結論

新型コロナウイルス感染症の蔓延下であったが、社会経済活動の活性化に伴い、全国各地で感染対策を徹底しつつ、従来の講演会、市民公開講座などの啓発活動の開催数も徐々に回復している。ブロック単位や県単位での実態調査と情報交換を実施することにより、今後の CKD の普及、啓発を実施する上での課題を浮き彫りにすることが可能となる。今後も感染拡大に注意しながら、様々な場面で使用可能な普及啓発資料を作成し、さらには患者会や行政との連携を強化することで、CKD の重症化予防に繋がるのが期待される。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Nakagawa N, et al. Knowledge of Chronic Kidney Disease among the General Population: A Questionnaire Survey in Hokkaido Prefecture, Japan. J Pers Med. 12(11):1837, 2022.
- 2) Imasawa T, et al. Long-term effectiveness of a primary care practice facilitation program for chronic kidney disease management: an extended follow-up of a cluster-randomized FROM-J study. Nephrol Dial Transplant. 38(1):158-166, 2023.
- 3) Takeuchi H, Uchida HA, et al. The Beneficial Effect of Personalized Lifestyle Intervention in Chronic Kidney Disease Follow-Up Project for National Health Insurance Specific Health Checkup: A Five-Year Community-Based Cohort Study. Medicina (Kaunas). 2022 Oct 26;58(11):1529.
- 4) Uchida HA, Onishi Y, et al. The Effect of Medical Cooperation in the CKD Patients: 10-Year Multicenter Cohort Study. J. Pers. Med. 2023, 13, 582.
- 5) Imasawa T, Saito C, Kai H, et.al. Long-term effectiveness of a primary care practice facilitation program for chronic kidney disease management: an extended follow-up of a cluster-randomized FROM-J study. Nephrol Dial Transplant. 2023 Jan 23;38(1):158-166.
- 6) 今澤俊之、浅沼克彦、寺脇博之、日比野久美子、入江康文. 千葉県における慢性腎臓病 (CKD) 重症化予防対策-CKD対策協力医制度の現状報告、千葉県医師会雑誌/ 第74巻(2022)6号P256-260

2. 学会発表

- 1) 今澤俊之. 共同企画10 生活習慣の変容と慢性腎臓病: 社会実装を見据えたデジタルヘルスアプリの展望 (日本腎臓学会) 「CKD 診療におけ

る効果的多職種連携の社会実装化へ向けた課題」第42回医療情報学連合大会/第23回日本医療情報学会(JAMI)学術大会、2022.11.19。(北海道)

- 2) 大西康博、内田治仁、ほか. 岡山市CKDネットワーク(OCKD-NET)におけるCKD病診連携11年後の追跡調査. 第65回日本腎臓学会学術総会、神戸国際会議場、神戸市、2022年6月10日～12日
- 3) 梅林亮子、内田治仁、ほか. 岡山県各医療圏における慢性腎臓病の有病率とそのリスク因子の検討. 第65回日本腎臓学会学術総会、神戸国際会議場、神戸市、2022年6月10日～12日

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし